

(様式3号)

## 修 士 論 文 要 旨

看護学専攻 実践基盤看護学 分野	学籍番号 214604
看護管理学 領域	氏 名 林 智世
論文題目	三重県における介護老人福祉施設の褥瘡管理システムに関する研究 ーチーム研修による介入手法の検討ー
キーワード	介護老人福祉施設、褥瘡管理システム、チーム研修、介入、研修効果
<p>【目的】</p> <p>我が国の高齢化率、要介護者数は増加傾向にあり、医療対策の中で褥瘡発生リスクの高い高齢者に対する褥瘡予防は重要課題である。しかし、三重県内の介護保険施設（介護療養型医療施設を除く）24施設に対する事前調査の結果から、褥瘡管理システムが十分に機能していない状況が伺えた。本研究では、特に要介護3以上の高齢者が対象となる介護老人福祉施設において褥瘡予防を目的とした手法の異なる研修を行いチームで行う研修のほうが、褥瘡管理システムが機能することを明らかにする。</p> <p>【方法】</p> <p>三重県内の介護老人福祉施設に対し、皮膚排泄ケア認定看護師が単独で行う研修A（7施設）と皮膚排泄ケア認定看護師と施設職員が講師として参加するチームで行う研修B（3施設）を行った。全職員に対し、研修前、研修2か月後に褥瘡管理システム、知識、実践について質問紙調査を行い、研修A、Bおよび研修前後の2要因で分散分析を行い比較した。</p> <p>【結果・考察】</p> <p>褥瘡管理システムの変化においては、研修A、Bで明らかな違いはなく、すべての施設に変化は生じていなかった。しかし、研修前から「準備期」であった施設は研修後「実行期」に移行し、褥瘡管理システムの変化が認められた。職員間でのケア統一、皮膚の観察、指標となる基準の導入など、行動変容に向けた変化が認められ始めていた。</p> <p>知識においては、研修A、Bともに研修後の平均得点は有意に上昇した。しかし、研修手法での差は認められなかった。研修Aでは皮膚排泄ケア認定看護師が要点を押さえ、画像を取り入れた説明と、どの職種が聞いても分かりやすく納得できる内容に配慮した。研修Bでは施設の問題点や職員全員に周知徹底し改善して欲しい内容が盛り込まれ、実践に即した内容であった。このことから、研修A、Bともに褥瘡に関する新しい情報を理解し、知識として実践の場で繰り返し反復体験したことが2か月後の研修効果につながったと考える。</p> <p>実践においては、研修A、Bともに褥瘡予防の視点から、皮膚の観察を中心とした3項目で研修後有意な差を認めた。さらに実践の5項目で研修Bに有意な差を認めた。研修によって「認知領域」の知識（知っているだけ）から解釈（意味づけや理解）に移り、「情意領域」の反応（行動）につながったと考えられた。未受講者においても実践の1項目で研修Bに有意な差を認めた。未受講者の変化は、研修による知識の獲得だけが影響しているわけではなく、実践の場での受講者からのフィードバック、情報共有などの環境要因が影響していると考えられた。</p> <p>【結論】</p> <p>褥瘡管理システムが機能することにおいては、研修A、Bの違いは影響しないことが明らかとなった。しかし、研修前からすでに行動変容ステージの「準備時」であった施設においては研修後2か月の間に「実行期」に移行し、褥瘡管理システムのインプット、プロセスからアウトプットへの変化が認められた。</p>	